
白狐が探すモノ

冬夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

白狐が探すモノ

【Nコード】

N6089V

【作者名】

冬夜

【あらすじ】

↓綾瀬奏汰へアヤセカナタ・15歳・高1・変わったバイトをしています。

彼自身は普通の高校生と変わらない。彼の友は普通と違う。

友は何百年も生きていると噂の『白狐』。白狐は男女の双子で、普段は五歳くらいの人間の姿をしている。

この不思議な組み合わせの3人で【白狐屋】という【探し屋】をしていた…。

…モノは、イロイロ…（前書き）

ある日、奇妙な手紙『依頼』が奏汰に届いた。

差出人不明、滲んで読みにくい《…ノタメニ、…ウシテ…ツヨ…》
の文字。

そして何より”20年前の日付”

【白狐屋】としてどうしようか…、と双子のもとへ向かっていた。

…モノは、イロイロ…

【peace 1】

「風音、水音、どこ行っただけ？依頼だ。」

俺は無造作に突き出ている草木をかき分けながら、2人の名前を叫ぶ。ここはどこかの森の奥深く、確かこの先に古びた神社があったはず…。

「お前らの好きなキュウリの漬物持って来たぞ。」

「漬物、！！」

2人の声が聞こえたが、どこからだ？辺りをぐるりと一周見渡したがいない。…まさかな？

「ぐわっ！！」

突然、頭に衝撃が走った。そのまま地面が顔に迫ってきて…、

>>ドン…

という鈍い音をたてた。ついでに、「はっ！？」と2つの音も混ざっていた。そして…

1つの音からは、

「綾瀬奏汰っ！！ふうとみずの漬物は無事か！？」

もう1つの音からは、

「漬物…、奏兄さんっ！！無事ですか！？」

と続いた。

今、探し人の声は俺の背中の上から聞こえる。つか、顔痛え…。

「…重いから早くどいてくれ…」

「おっと！！ごめんよ！」

「あっ！？…ごめんなさい。」

2人は謝りながらどいていく。俺は「はあ…」と大きな溜め息をつきながら起き上がる。

「漬物キュウリに負けるのか…。ついでに、依頼というのも忘れ

てるな…。」

俺の想いを知ってか知らずか…、もう2人とも完全に漬物にしか興味が無く、

「みずっ！沢山あるよっ！！」

「食べ放題ですねっ！姉上っ！」

と『耳と尻尾』を忙しそうにしている。呆れながら服の土埃を払っていたら、

>>ポタタ……

「早く神社にいつ…て…」

なぜか風音が目を丸くさせている。

「…奏汰っ！！血っ！！」

……え？

「奏兄さんっ！！血が出てます！！」

……血…？

「奏汰っ！？奏…！？か…た…」

「奏兄さんっ！？奏…さ…！？かな…」

再び地面が迫り、慌てる風音と水音の声が薄れていき……

俺の意識は途絶えた。

N E X T ↓ p e a c e 2 【

…モノは、イロイロ…（後書き）

結末を考えず書いてる自分。やべっ…（。△。：）
書きながら考えます（ω₁）b。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6089v/>

白狐が探すモノ

2011年10月9日13時26分発行